

檀信徒各位

十夜法要のご案内

聖名 時下晩秋の候、専心聞法の好季節となりました。
今年も収穫の時期を終え天地の恵みを感謝する頃でもあります。下記のように十夜法要を勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。 合 掌

平成22年11月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

記

※期 日 11月23日(火) 勤労感謝の日

※時 間 午後1時より御 回 向 (普通回向)
午後2時よりふじゅもんえこう 諷誦文回向 (特別回向)、法 話

※布教師 大西 文生 師 (長崎教区 法樹寺)

※ご回向料

普通回向 1 霊 1,000 円以上

特別回向 1 霊 5,000 円以上 志納下さい。

初めてお十夜を迎える霊位、又は特別に志される霊位、

布教師様によるふじゅもんえこう 諷誦文回向です。焼香をしていただきます。

お申し込みの方は事前に御連絡をお願いします。

※お供え米、お供え米料 随意志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

十夜（じゅうや）法要

10月から11月にかけて全国の浄土宗寺院でひろく行われる念仏会（ねんぶつえ）です。「お十夜」「十夜法要」「十夜講」「十夜念仏」などともいい、正しくは、「十日十夜（じゅうや）法要」といいます。もともとは陰暦の10月5日の夜から15日の朝まで、10日10夜にわたる法会（ほうえ）でした。

この法会は、浄土宗で最も大切な経典（きょうてん）の一つ『無量寿経（むりょうじゅきょう）』の巻下に、「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間善行をすることよりも尊い」と説かれていることによって、その教えを実践したもので、10日10夜にわたり 不断（ふだん）念仏を称えて 別時（べつじ）の念仏を修し、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要であります。

この法会が初めて営まれたのは、今から550年ほど前（永享（えいきょう）年間）、伊勢守平貞経（いせのかみたいらのさだつね）の弟 貞国（さだくに）が、京都の天台宗の真如堂（しんにょどう）で修したのがその始まりとされています。その後、明応（めいおう）4年（1495）に、現在浄土宗の大本山の一つになっている鎌倉光明寺の第九世 観誉祐崇（かんよゆうそうしょうにん）上人 が、後土御門（ごつちみかど）天皇に招かれ、宮中で、『阿弥陀経（あみだきょう）』の講義をされ、さらに真如堂の僧といっしょに引声（いんぜい）念仏を修し、勅許（ちよっきよ）を得て、光明寺で法要を行うようになりました。これが浄土宗でのお十夜の始まりで、今では浄土宗の大切な法要となっています。

お十夜は、お念仏の尊さを知り、感謝の気持ちを込めてこれをお称（と）なえする大切な法会です。今日ではその期間も10日間から5日、3日、あるいは1日と短縮されて行われていますが、この大切な念仏会に参加し、仏の国での千年の善行にも勝る善行を、ぜひ積んでいただきたいものです。

音楽法要解説

その一

こう
げ

願我身浄如香爐
がんにんじょうによこうろう

願我心如智慧火
がんにんしんによちえかあ

念念梵焼戒定香
ねんねんぼんじょうかいじょうこう

供養十方三世佛
くようじつぽうさんぜえぶう

わが身浄まり（香偈） 歌詞
わがみきよまり こうろうのごとく

ねがわくは わがみきよまり こうろうのごとく
まことのころ みほとけにささげまつらん ささげまつらん

ねがわくは みほとけのちえ ひのごとく ぼんのうのけがれを
やきつくさん やきつくさん

ねんねんに いましめとせずけさのこうをたき
じつぽうさんぜのみほとけに

くようしたてまつる くようしたてまつる

釈尊の生涯 覚り

ピッパラ樹の下で悪魔との戦いに勝利者となった太子は、最高の知恵(智慧)を体得し、この上ない「さと(正覚)をひらいて仏陀となられた。

太子三十五歳十二月八日の未明、ちょうど森のはるかかなたに明の明星がひときわあかるく輝くときであった。太子の心は実にすがすがしくさわやかで、いままで経験したことのない静かな喜びにひたられた。時に太子は思わず掌をあわせて「南無仏」と礼拝された。

仏教徒は今日にいたるまで、仏陀となられたこの太子をシャカ族の聖者としてあがめて、釈尊、釈迦牟尼、あるいは仏陀と尊称し、記念すべきこの日を成道の日、さとりの日、この聖地をブツダガヤ(仏陀伽耶)、この聖

なる修行の座を金剛宝座、このピッパラ樹を菩提樹と名づけて、成道を永遠に記念している。

思えばじつにこの間、六年間(あるいは七年間)にわたる堪えがたい困苦をたえしのんだ釈尊の偉大な克服の積み重ねこそ、出家の目的を実現させたのである。このことは、釈尊がこの世に生をうけたその時から、仏陀であったのでないことを示すものであり、生まれてからそのまま成長した人間と大きく精神的に飛躍した仏陀との内面的な距離は、実に大きなひらきがあると言わなければならぬ。すなわちこの距(た)りは、すべての人の身と心に蔓(むす)のようにまきついて、その自由を束縛、阻止するものときほぐすか、否(いな)かにかかわっているわけである。

伊勢の海の清き渚はさもあらばあれ

我は濁れる水に宿らん

『玉葉和歌集』善光寺如来託宣歌

(訳) 伊勢の海の清らかな渚はそれはいとして、我は濁った水に宿らう

鎌倉時代末期の勅撰和歌集『玉葉和歌集』の釈教歌(仏教歌)の部の冒頭を飾るのが、この歌です。

詞書きに「これは善光寺阿弥陀如来の御歌だ」とあります。

善光寺にお参りした人がお告げを受けて、いつしか世にひるまった歌なのでしょう。

伊勢は天照大神を祀る神宮の浄域です。「伊勢の海の清き渚」という句は、清らかな神宮の海に美しく月が宿っていることをいいます。

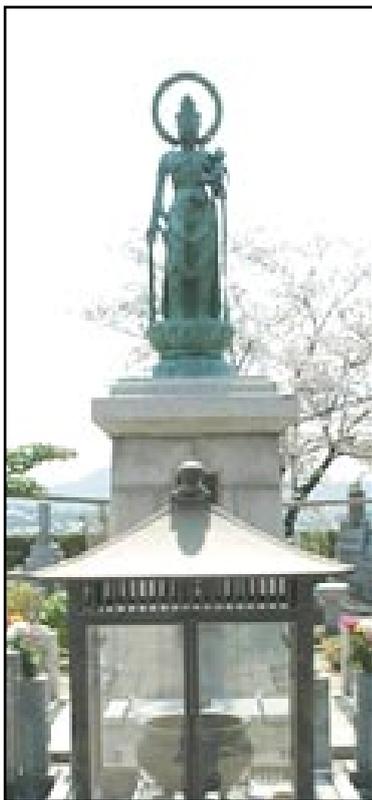
いっぽう、善光寺の阿弥陀如来は、伝によると、水の中から発見されたものでした。それは飛鳥時代のことです。信濃の国の本田善光という人が難波の堀江(大阪湾の湿地の水路)のそばを通りかかった通りかかったとき、水の中より金色に光る阿弥陀如来と観音、勢至菩薩の三尊像があらわれたのです。善光は三尊像を背負って信濃に

戻り、堂を建てて祀ったのが善光寺の始まりです。

じつは、この阿弥陀如来三尊は、日本に初めて仏教が伝えられたとき、百済の聖明王から欽明天皇に献上された仏像だそうです。

当初は仏教を奉じることに対する勢力が強く、難波の堀江に投げ込まれてしまったのですが、仏法が広まる時が至り、水の中から光を放って、ふたたび世に現れたのでした。

しかし、善光寺如来は、いつでも濁った水の中にいると、自ら歌を宣じられたということですから。阿弥陀仏の光は、人々が苦しみ迷う濁った世にこそ、いっそう力強く輝いて、人々を極楽浄土に導くのですから。



14日会 (念仏と写経の会)

- 1、日 時 毎月第3土曜日但し、8月はお休み
午後3時より勤行とお念仏
(日常勤行式 浄土宗のお勤め)
引き続き 写経会

※お勤めだけ、または写経会のみのご参加も歓迎します。

- 2、場 所 無量寺 2階 本堂にて

- 3、参加費 無 料

写経用紙(和紙)は準備しております。(実費をお願いします。)

用具は各自お好みのもの

(筆、すずり、墨汁、サインペン等)をご持参ください。

筆ペンを多少準備しております。

納経をされる方は 納経料 1巻 1,000円をご志納下さい。

(納経料は積み立てて、観音様建立の資金といたします。)

無量寺の聖観世音菩薩は筑後33ヶ所観音霊場18番札所です。

かぞくておいしい!
かろな流 精進料理



【作り方】

- 1 豆腐は重しをして水気を除き、いりごまをすり鉢でよくすり潰す。
砂糖、塩、化学調味料を加え、粘りが出るまでよくまぜ裏ごしにする。
- 2 大根、人参、椎茸、こんにゃくは短冊に切りそろえ、鍋に鰹だし、砂糖、醤油を入れ下味をつけて煮る。
- 3 (2) で煮上がった具を水切りし、1の衣と鰹だしで硬さを調整しながら合わせ器に盛り、塩ゆでしたさやいんげんを添える。

山陽編

～しらあえ～

浄土宗～かるな～より

<材料>

- 大根・・・100g
- 人参・・・70g
- 椎茸・・・4枚
- こんにゃく・・・半丁
- さやいんげん・・・8本
- いりごま・・・大さじ2杯
- 砂糖・・・大さじ3杯
- 塩・・・少々
- 科学調味料・・・少々
- 鰹だし・・・適量

戒名を受けることは

お釈迦様の弟子になること。
戒名は極楽世界へのパスポートではありません。いわば洗礼名のようなものです。
仏の加護を受けて、その人らしい人生を生きる為に、誓を立て、戒を守って、仏教徒として生きていくということです。

いちようの葉



佛教

何もかんも

正覚寺住職 行正明弘

『和尚のひとりごと』

① 本堂は老朽化のため、再建やむなきにいたり、寄付をお願いしたら、檀家を脱退する旨の返事が届いた。この家はいつた、いくつ寺を変わるつもりなのだろう。

② 檀家の奥さんが亡くなった。嫁に来て数年、二十代であった。その嫁の実父が四十九日が過ぎたら実家に引き取って祀るといふ。その実父が「私の家は代々『院号』です。院号でないと都合が悪いのでつけてくれ。」と言った。しかし、当山での実績がないので、寺の仕来りや院号の意味を話してハッキリ断った。
そうするとその親は「金さえ出せば院号をつけてくれるんだらう。どこの寺もそうですよ。」坊主は檀家で飼って

いるんだ。こちらの言うことを聞いて当然ではないか。話のわからん和尚だ。」と。
そこで私ははつきり答えた。

「そうまでして院号をつけてもらいたかったら、あなたの寺でつけてもらったらいいでしょう。私は絶対つけません。」

③ 近所の子供が夏休みの間、寺の庭でラジオ体操をしたいと言ってきた。お話も聞きたいというので本堂に上げてきた。子供達は自主的に掃除をして帰るようになった。しかしある親のひと言で寺に来なくなつた。「うちの子がなんでも寺の掃除をしなければならぬのだ。宗教教育は公の場では法度です。」と息巻いたそうです。

④ 法事に行ったら住職の私が付けた戒名と違う。「この院号はどうしたのですか」と尋ねたら、「私が付けました」だとさ…。

あのね、それはだめですよ。
⑤ 小学生の教え子が修学旅行から帰って来た。和尚の私に土産を買って来てくれた。

開けてみると「マリアさま」だった。アリガタイヤラ!!
複雑です…。

⑥ 自宅法事で法衣に着替えるため袈裟を広げたら、その若奥さんが平気で股越して行つた。後日、そのせいではないと思うが、離縁になった。

⑦ 法事が済み、帰りがけに玄関で呼び止められた。そして「和尚さん、いくらですか」と言つて財布から紙幣を数枚つまみ出してくれた。なんだかとてもみじめです。

⑧ 読経の最中、ちよつと脇見をしてしまったのは悪かつたと思つています。丁度そのとき、私の後の主人と、横の障子の隙間にいた奥さんが手話の最中だったとは知りませんでした。指を数本立てたり握つたりしていたのは、布施の相談でしたか…。知らぬが仏の言葉が身に染みて解りました。

※この文章に他意はありません。世相を反映したものとしてみ聞き流していただいて結構です。

無量寺コンサートのご案内

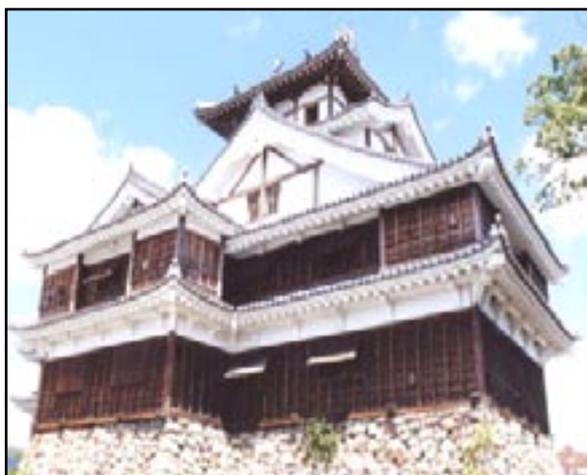
- | | |
|--------|----------------|
| 1, 期 日 | 平成22年11月13日(土) |
| 2, 時 間 | 午後5時開場、5時30分開演 |
| 3, 場 所 | 無量寺 1階講堂にて |
| 4, 参加費 | 無 料 |

永代供養墓（合掌の塔）

この供養塔には、お墓や納骨堂を祀っていくお子さんや跡継ぎのおられない方、ご夫婦などが入っておられます。個人単位で骨壺のまま納骨いたします。

ご主人が亡くなられて、奥さんがご主人のとなりにお申し込みされているところも多くあります。

早期にお申し込みでも、事情が変わった場合など解約することもできます。(ただし、納骨後は解約できません。)



有馬家の歴史 丹波福知山城

京都府福知山市

天正7年、明智光秀は横山城の横山信房を討ち、丹波平定を完成させた。織田信長から丹波を与えられ、横山城を大修築して丹波での居城とした。

天正10年、山崎の合戦に光秀は敗れ敗死する。

豊臣秀吉の領地となった。その後、小野木重勝

が3万石で城主となるが、関ヶ原の役後切腹する。

慶長5年、有馬豊氏が6万石で遠江横須賀より入封する。その後8万石に加増される。

元和7年に豊氏は筑後久留米に転封したあと、城主は、岡部・稲葉・松平氏と替わり、寛文9年に朽木植昌が32,000石で常陸土浦から入封する。朽木氏は14代続いて明治に至った。



メールアドレス登録 QRコード (携帯電話等で読み取って下さい)

<http://muryoji.net/touroku>

メールアドレスを登録していただくと、「回向が無事終わりました」などのお知らせをいたします。